

平成28年度 学校・家庭・地域連携サポート事業

# 県北地区学校支援実践研修会

in 桑折町立半田醸芳小学校

- 目的：学校支援地域本部事業についての活動参観や実践発表、研究協議を通して情報交換を行い、事業に携わるコーディネーターやボランティア人材の資質・向上を図る。
- 日時：平成28年10月17日（月）13：30～16：20
- 場所：桑折町立半田醸芳小学校

## 実践報告 「桑折町の学校支援地域本部事業について」

報告者 桑折町体験活動・ボランティア活動支援センター  
コーディネーター 荒 哲也 氏

実践報告では、桑折町体験活動・ボランティア活動支援センターコーディネーター荒哲也氏に「桑折町の学校支援地域本部事業」について発表していただきました。桑折町では、平成20年度より、学校支援地域本部事業が始まり、9年目を迎え、平成25年度に優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受けました。

- ① 学校支援の内訳  
国語、社会、理科、家庭科、総合、道徳
- ② 支援体制について
  - a 「桑折町人材協力支援バンク」登録名簿の活用  
平成28～29年度 105名 14団体。町内だけでなく、町外の方々にも積極的に呼びかけ、人材確保に努めている。
  - b 読みきかせ「ファミリー文庫」  
ら・みるく、コスモス、スマイル、ホットケーキ。  
年間計画に基づき、各幼稚園、小学校で活動をしている。
- ③ 運営について
  - a 手続きとコーディネーターの動き  
学校、コーディネーター、サポーターが相互に関わっている。学校からサポーターへのお礼状に、大変気持ちがこもっている。感謝の気持ちが十分に伝わっている。
  - b サポーターからの反省と聴き取り → 主に電話で
  - c 連絡調整と人材確保  
名簿登録者や町内関係者で都合できない場合は、他市町へ依頼。福島市、伊達市、国見町からも人材を確保している
  - d 支援センター事業関係者合同会議  
年2回開催し、委員・関係者の意見や反省をもとに次年度の運営に生かしている。
- ④ 広報活動
  - a 「支援センターだより」  
モノクロ版は年9回、カラー版は年2回発行。回覧板で町内へ配布。取組を知ってほしい、理解してもらいたいという思いから、全戸に配布している。
  - b 活動写真などの展示  
地区公民館、駅構内、文化祭などで活動の様子を展示
- ⑤ 心がけていること
  - a 研修会での講演や他市町村との情報交換等をもとに、自分たちの活動に少しでも生かしていく。  
自分達だけの考えに閉じこもらず、他市町村の様子を参観し自分たちに生かす。現在のやり方がベストと思わず、常により良いものを求めている。



- b サポーターの方々へ、直接訪問して依頼をするなど、誠意を持って接する。  
電話だけでなく、直接行くことが大切。
  - c 教頭・担当の先生と意思疎通を図る。
  - d 人材確保のため、常にアンテナを高くしておく。  
様々な機会を見つけ、登録を依頼している。桑折町の子どもたちのために。
- ⑥ 今後の課題
- a 各学校のニーズに応えられるような支援体制作り。  
個別に対応する必要がある。
  - b 学校独自で活用した人材についても、共有できるように把握する。
  - c サポーターの高齢化が進む中で、新たな人材を確保すること。  
ボランティアさんには、ただサポートするだけではない。子どもたちから学ぶことが多いということ伝えたい。

## 活動参観

### 3・4年生 総合的な学習の時間「半田祇園囃子体験」

- 活動参観では、半田祇園囃子保存会の3名の方の指導を受けながら、3・4年生が学習発表会に向けての練習に、児童一人一人がとても熱心に取り組んでいました。子どもたちが伝統芸能を地域の方々から受け継ぐ素敵な活動でした。
- 半田醸芳小学校では、今回の「半田祇園囃子体験」の他にもボランティアの方々支援を受けながら、充実した教育活動が展開されています。こうした地域の人々との交流により、子どもたちの地域への関心・理解が深まります。さらに、自分の住む地域への愛着や親しみを持つことになれば、結果として地域全体の活性化につながることを期待できます。



## 実践発表 「むらたっ子応援団事業について」

発表者 宮城県柴田郡村田町教育委員会生涯学習課総括主査 鎌田 浩孝 氏

実践発表では、宮城県柴田郡村田町教育委員会生涯学習課総括主査鎌田浩孝氏に村田町の「むらたっ子応援団事業」について発表していただきました。村田町は、平成23年度に優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰を受けました。

### ア むらたっ子応援団事業の取組

- ① 取組内容（3本の柱）・・・子どもたちの全ての学びを支援するために、3本の柱を設定した。
  - a 学び支援事業（学校教育支援事業）
  - b 子育てサポート事業（家庭教育支援事業）
  - c 地域教育活動支援事業（地域活動支援事業）

### イ むらたっ子応援ボランティア

- ① 登録（現在：個人145名、団体8団体）
  - a 子どもたちの学び（育ち）を応援するという趣旨に賛同いただいた町民の方々で構成
  - b 無償ボランティア。活動へのお礼は子どもたちの「笑顔」と「ありがとう」の言葉  
学校主催で感謝の会を開催することもある。
  - c モットーは、できる人が、できることを、できるときに…

- ② 養成・育成
  - a 成人教養講座との連携（受講者からボランティア登録へ）
  - b ボランティア研修会の開催（学校関係者、ボランティア等）

ウ 地域コーディネーター

- ① 現状：町社会教育指導員 1 名
- ② 主な役割
  - a 幼稚園、保育所、小・中学校等からの支援依頼に基づき、ボランティアをコーディネート  
子どもたちの学びが充実するように必ず打合せを行っている。
  - b 活動の状況把握
  - c 広報・周知活動

エ 【子どもたち】・【学校】に何がもたらされるのか

- ① 学ぶ意欲・関心、問題解決能力
- ② 大人への関心・理解
- ③ 地域への関心・理解
- ④ ボランティアへの関心

オ 【地域の大人（ボランティア）】に何がもたらされるのか

- ① 学習成果・経験の活用が得られる
- ② 新たな学習課題の発見につながる
- ③ 子どもから学ぶ、子どもへ伝える（＝地域の教育力としての子ども）
- ④ 生きがいを求める学習者にとっては、活用が得られることで、生きがい感が強くなる（＝自己有用感の獲得） → 学校に対する一方的な奉仕ではない

カ 【地域コミュニティ】に何がもたらされるのか

- ① 教育活動を通して地域の教育力の向上が図られるとともに、地域の中での人々の間での信頼関係やコミュニティとしての一体感（社会教育資本）が蓄積される。  
→ 地域を活性化し、地域力を高める活動の一つであり、地域の価値を高める活動。  
→ 「子ども」を通したまちづくり・人づくり = 地域住民による人間関係づくり

キ 成果

- ① 複数の主体が協働した学び
- ② 地域の良さを活かす事業展開
- ③ 情報の発信 → 主体への動機づけ

ク 課題

- ① 学校・学習者にニーズ把握 ※形骸化
- ② 地域の子どもたちによる学びの創出・発展
- ③ 協働教育事業継続への仕組みづくり ※単発で終わらず継続していく。

ケ 「これからの学校と地域の目指すべき連携・協働の姿」（H27.12.21 中央審議会答申）

- ① 地域とともにある学校への転換
- ② 子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築
- ③ 学校を核とした地域づくりの推進

コ 大切にしたいこと… 人と人とのつながりとそれぞれの思い  
※子どもを通して地域が元気に



## 質疑応答より

Q1 桑折町の体験活動・ボランティア活動支援センターの設置主体はどこか、またスタッフは何名いるのか。

A1 生涯学習課に設置。スタッフは 2 名。1 人は職員、もう 1 人は嘱託職員。

Q2 桑折町の活動を地域に認知してもらうための広報活動について。

A2 「支援センターだより」を発行。カラー版は印刷所に依頼。保護者には各学校を通じて配布。各戸には町内会の回覧板を用いて配布。

Q3 村田町では地域教育をどのように捉えているのか。

A3 宮城県プラットフォームにも位置づけされている。学校教育、家庭教育以外全てを地域教育と捉えている。子どもの学びにつなげたい。

Q4 村田町の幼保、児童館、支援センターへの支援について。

A4 園外保育の安全支援や農作物栽培の活動支援など学校における教育活動と同様に支援している。また、家庭教育の支援として保護者を対象に子育てに関する学習会を実施している。

- Q5 村田町では活動をどのようにして学校へ浸透させているのか。
- A5 学校を回り広報活動している。事業に対する理解を深めてもらうため、教職員用リーフレットを作成し周知している。先生方に少しでも町の活動を知ってもらいたいという思いが強い。子どもたち・ボランティアの取組を紹介した「たより」をコーディネーター、職員が作成し全戸に配布している。
- Q6 予算額と内訳について。
- A6 桑折町は70万円程度。コーディネーターへの謝金と印刷費。年2回ほど会議を開くが会議費無し。
- A6 村田町は140万円程度。ボランティアは無償。コーディネーターは、社会教育指導員の職務として位置づけている。報償費（家庭教育支援、地域教育活動などの外部講師）、会議費（お茶代）、消耗品費（ボランティア活動に係る消耗品）、印刷製本費（たより印刷代）、通信運搬費（郵券代）、保険代を計上。
- Q7 地域人材へのコーディネーターの関わりは。
- A7 桑折町では学校から要請を受けることが基本。学校は登録分野との関連性を吟味して依頼している。学校の教育課程に地域を入れるのはなかなか難しい。教員の異動で要請が変わることもある。学校内での検討も必要と感じる。
- A7 村田町も学校からの支援依頼の内容に基づく。学校が何を求めているのかを把握するための打合せを実施している。学校の教育活動のねらいを大切にしている。活動日誌にボランティアは気付いたことを記入するので、状況に応じて学校に伝えている。
- Q8 活動を通し子どもたちの何が変わったか。評価検証の中身は。
- A8 活動の成果は学校側が判断するものではないか。
- A8 村田町では評価検証委員会は今年度から実施。学校は、活動の取り組み方（ボランティアとの目的の共有など）や子どもたちの学習の様子などから、また、ボランティアは、活動日誌の内容から充実度や満足度について評価・検証を行う。評価検証委員会は、年4回開催する予定である。成果については、目的の達成状況や活動を通しての満足度から伺えると思う。
- Q9 無償ボランティアでやっていけるか。維持できるか。
- A9 桑折町は全て無償で実施。逆にボランティア自身が自腹で教材を準備することもある。打合せの時間を短縮するため、またやらなくともよいくらいに、学校からの依頼書にはねらいや内容、役割等を詳細に記入してもらっている。
- A9 村田町では無償としている。環境整備での草刈りにおける燃料費も支出していない。ボランティア活動へのお礼は、感謝の気持ちとみんなの笑顔。
- A9 国見町は、燃料費を各学校・保育所から出すことはある。
- A9 伊達市ではボランティアは無償で、それを理解した上で登録している。

### 御意見 要望 感想（参加者アンケートから）

- 必ずお礼の手紙等を出していることに感心しました。2年ごとにボランティアの更新をしていることも取り入れていきたいと思います。村田の先進事例はたいへんうらやましく聴きました。必ず社教主事は自治体にいるわけではなく、学社連携はまだまだ難しいです。基本的な部分の質疑はたいへんためになりました。
- コーディネーターとして悩んでいた部分など荒先生、鎌田先生のお話でかなり軽減されました。課題も多々ありますが、今後も研修等を生かし活動していきたいと思います。ありがとうございました。
- 参加してよかった。得ることが多々ありました。評価検証について、よい事例があれば教えていただきたい。
- 桑折町の取組は9年目ということもあり活動がたいへん充実しており、たいへん素晴らしいと思いました。活動がなかなか前に進まず悩んでいるところですが、本日の研修会はたいへん参考になりました。ありがとうございました。学校、子どもたちにとってプラスとなるような活動を推進していけるように努力していきたいと思えます。半田祇園囃子とても感動して拝見させていただきました。本日は参加して本当によかったと思いました。ありがとうございました。
- 他県の学校教育、生涯学習を知ることができ、本県と違う面があり、たいへん勉強になりました。
- たいへん勉強になりました。実践内容を詳細にお聞かせいただいたことに感謝申し上げます。
- 地域・学校・家庭が一体となり進めていくためには、誠意を持って接する、意思疎通を図るなど、人とのかわりが重要な鍵を握っていると思いました。質疑の時間は、聴くことで学ぶことが多かったです。
- 質疑がたいへん参考になった。半田祇園囃子とても素晴らしかった。
- 学校現場からの要望や要求になかなか応えられないことがあり苦労しています。本日は様々な方からの声を拝聴することができたいへん有意義でした。ありがとうございました。
- コーディネーター同士で情報交換できる場がほしかった。

